

---

第344回（6月30日開催）

「ODA（政府開発援助）戦略転換の中の企業の選択」

－アフリカにアジア開発支援の蓄積を活かす－

国際協力銀行（JBIC） 開発セクター部部長 築野元則氏

本年横浜で開催された TICADIV（アフリカ開発会議）で日本のアフリカへの取り組みは大きく前進する。福田首相は 2012 年にアフリカ向けの ODA を倍増すると約束した。

さて、その内容であるが、

1. TICADIV までの 5 年間（2003 年～07 年）の実績の平均値を基準とし、2012 年に日本の対アフリカ向け ODA を倍増する。この実績（基準値を含む）には無償・技協、円借款、アフリカ開発銀行等への拠出を含めるが、債務救済分は含まない。
2. 無償・技協を 2008 年以後徐々に拡大し、7 億ドルから 14 億ドルに倍増する。
3. 5 年間で対アフリカ向け円借款を更に積極的に供与し、2 倍以上に増額する。その中で、債務継続性や資源、具体的な開発ニーズを踏まえつつ、供与国の拡大を進める。

2008 年～12 年の 5 年間を通じて、対アフリカ向け ODA 事業量について、円借款が順調に供与されれば、概ね 3000 億円の積み増しが行われる。

また、5 年間でアフリカ向け民間直接投資の「倍増」につなげるよう、政府として政策ツールを総動員することも宣言した。（中略）

日本への投資拡大への期待は高いが、JBIC は円借款によるインフラ整備とともに、アフリカ開発銀行との協調による企業支援にも力を入れている。

アフリカならではの成長の阻害要因として HIV/AIDS の蔓延がある。南アフリカでは成人の HIV/AIDS 感染率が約 20 %。南アフリカは日本の企業も進出しているが、従業員が HIV/AIDS により突然欠勤したり死亡したりすることも多く、生産性低下、コスト増が経営上の深刻な問題になっている。

企業努力を通じた HIV/AIDS 対策の成功事例を新 JICA のネットワークを通じてアフリカ諸国に広げたいと思う。現地の NGO と連携しながら、トレーナー訓練を実施し、進出企業を支援する。